

子どもの日本語教育研究会 第10回大会 実践・研究発表⑬

地域連携をめざした外国人児童生徒のための JSL対話型アセスメント研修

—研修参加者のアンケート結果からの考察—

2025年3月8日(土)

小川 佳子(大阪市立中学校)・樋口 尊子(大阪樟蔭女子大学)・藤井 みゆき(大阪大学)

発表の流れ

1. 東大阪市における課題と実践の目的

1-1. 東大阪市における日本語指導の体制

1-2. 事業の概要と地域連携

2. 実際の内容

2-1. 日本語協力者の募集及びDLA研修の実施

2-2. 実践内容

3. 日本語協力者からの実践の振り返り

3-1. DLA研修およびDLA実施について

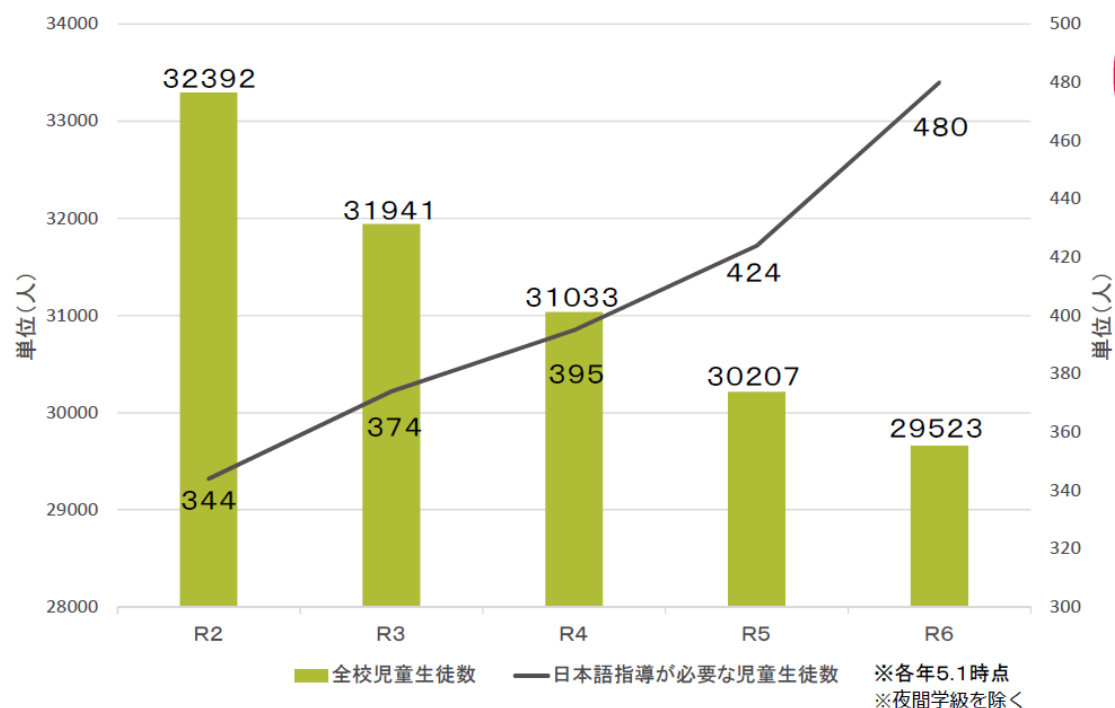
3-2. 活動案作成から実施報告会までについて

3-3. 取り組み全体と、今後について

4. 取り組みの状況

1. 東大阪市における課題と実践の目的

東大阪市の日本語指導が必要な児童生徒の現状と課題



1年間で
約60人
増加

R7 見込み
505人

日本語指導体制

B: 日本語指導担当教師による巡回指導を行う



出典 「外国人児童生徒受入れの手引き」

2019年3月改訂版

「第6章市町村教育委員会の役割」(p59)

出典:

東大阪市教育委員会学校教育部人権教育室「外国ルーツ児童・生徒の日本語教育支援を考える集い2025.2.15配布資料「東大阪市の日本語指導が必要な児童生徒について」

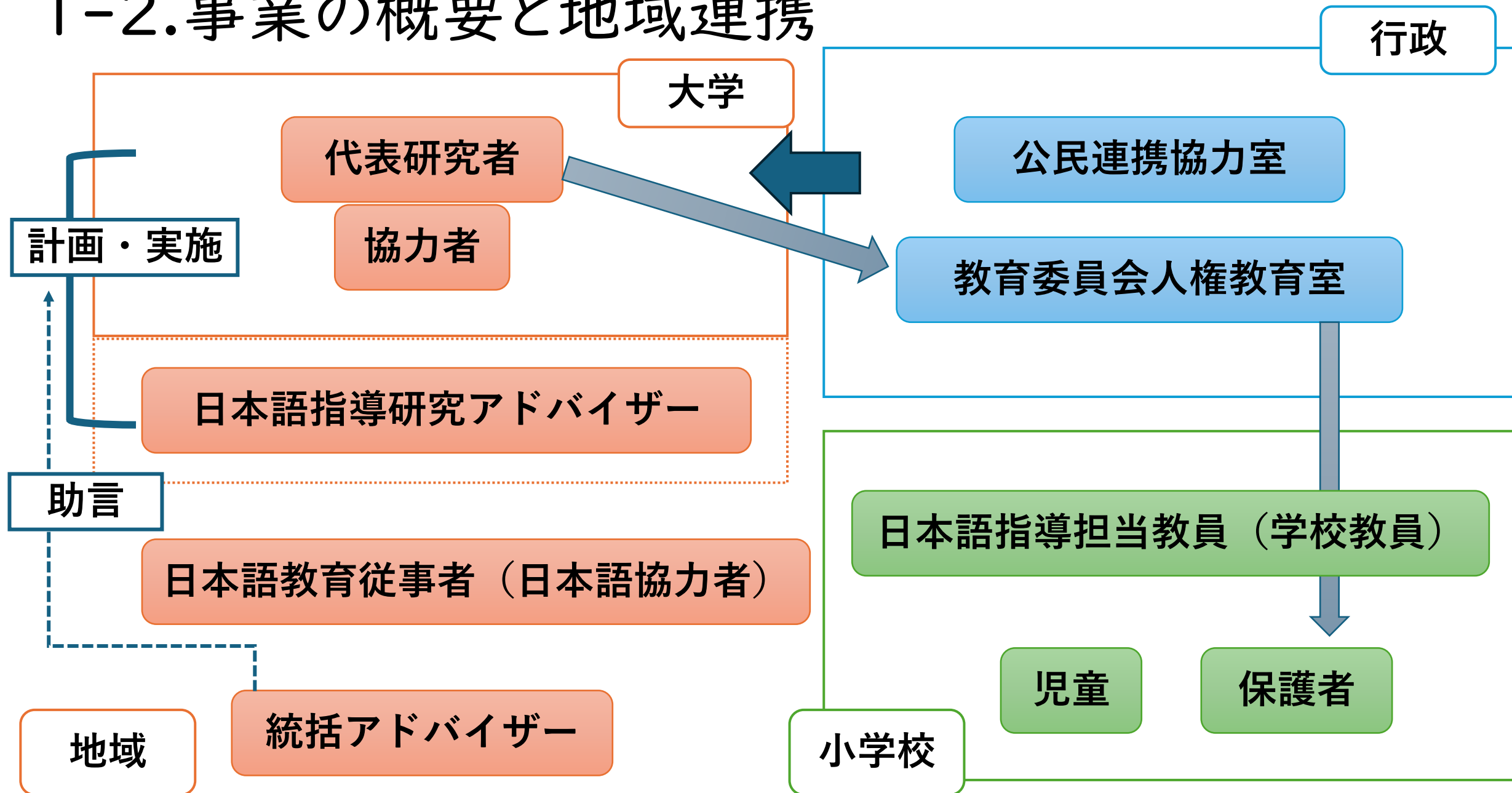
➔ 支援体制の構築

事業の概要

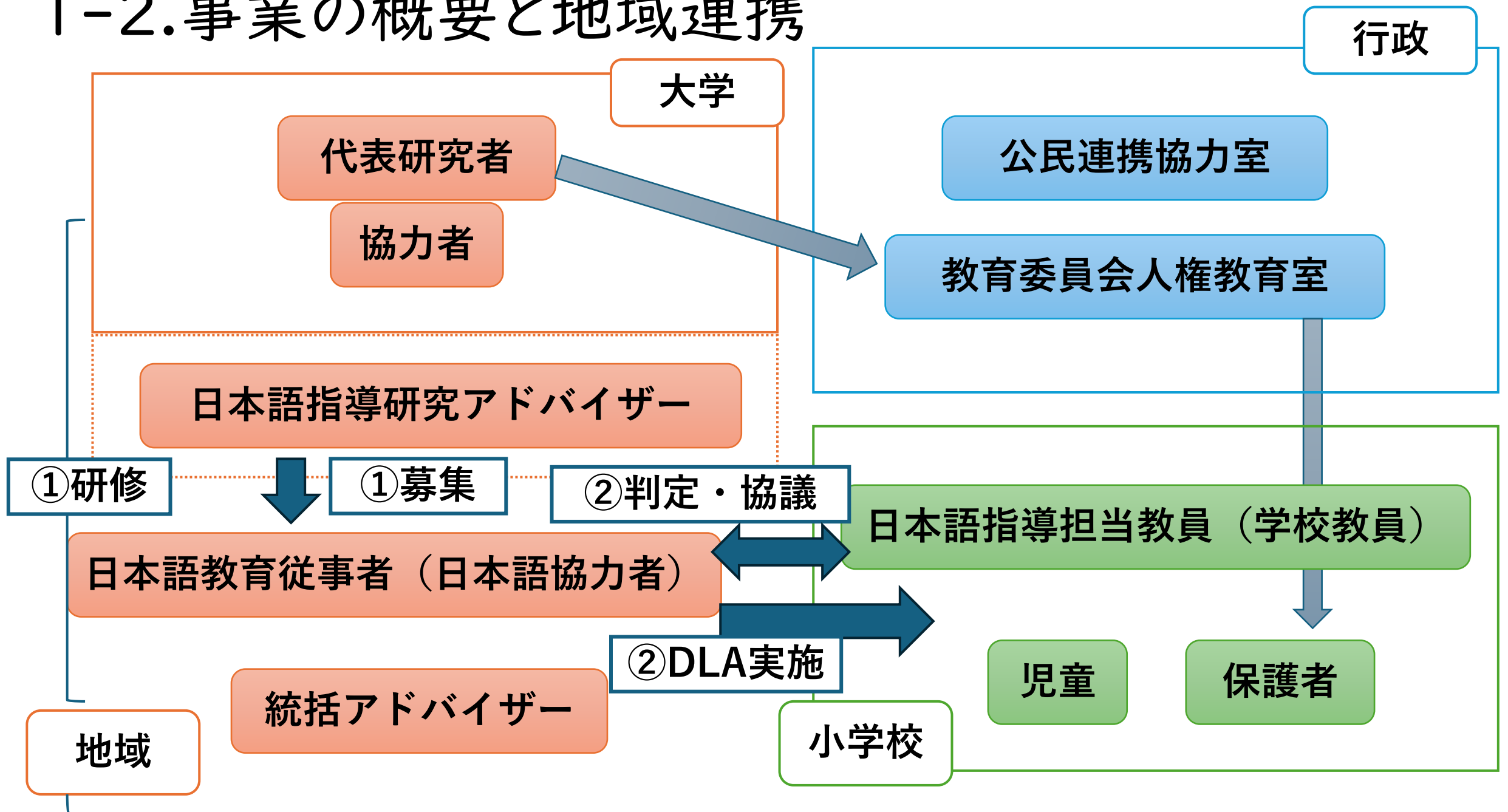
1-2. 事業の概要と地域連携

- ①日本語協力者の募集／JSL対話型アセスメント(以下、「DLA」)研修(5回)
 - ②日本語協力者によるDLAの実施及び学校教員(加配教員含む)との協議
 - ③日本語協力者がDLA結果に基づき活動案を作成
 - ④日本語協力者を対象にした活動案再考のための意見交換会
 - ⑤学校教員が活動案を実践
 - ⑥全関係者による活動案の実践報告会を開催
 - ⑦活動案を修正→報告書(活動案集)を作成→市内の全学校に配布
- ➡日本語協力者に対してアンケートを実施

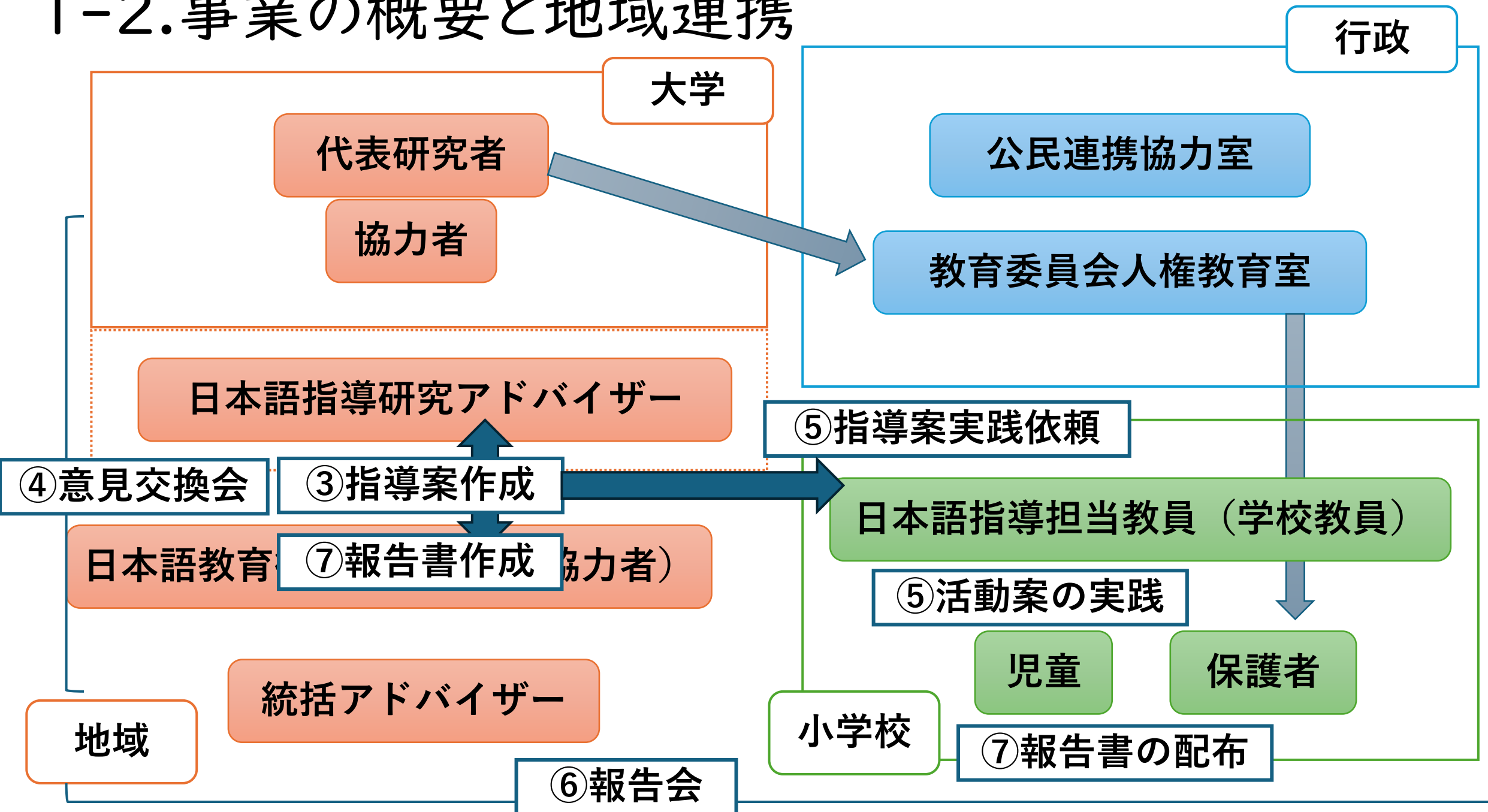
1-2. 事業の概要と地域連携



1-2. 事業の概要と地域連携



1-2. 事業の概要と地域連携



2. 実際の内容

2-1. 日本語協力者の募集及びDLA研修の実施

<条件>

- ・日本語教育に関する知識
- ・東大阪市内or隣接地域に在住、または勤務か通学

⇒ 10名の参加

<協力者の役割> (研修受講後)

- ・DLAの実施及びその判定
- ・DLAをもとに「日本語指導(活動)案」を作成

2-1. 協力者の募集と研修の実施

日本語協力者への研修

⇒ 5回実施

- ・講師：第1.2.3.5回は、アドバイザー2名が担当
第4回は統括アドバイザーが担当
- ・研修場所：東大阪大学
- ・実施形式：平日の午後約90分の対面式
*参加できない人向けに、後日オンラインでも実施

2-1. 協力者の募集と研修の実施

研修内容

- ・内容: 基本的に2部構成 (前半: 講義、後半: ワークショップ)
 - 第1回: 東大阪市の日本語指導の現状、子どもの日本語教育について
 - 第2回: DLA の概要 (話す、読むを中心に)
 - 第3回: DLA のやり方の確認と練習
 - 第4回: DLA の評価
 - 第5回: DLA の実施に向けて留意点の確認、日本語指導 (活動) 案の例の紹介
- ・実施時期: 2023年5月～8月

2-2.実践内容

DLAの実施

実施時期:2023年9月~10月

実施校:小学校5校

対象児童:11名 (1校につき1~4名)

A校	対象児童2名	担当協力者2名	担当アドバイザー (小川)
B校	// 4名	// 3名	
C校	// 3名	// 3名	担当アドバイザー (樋口)
D校	// 1名	// 1名	
E校	// 1名	// 1名	

2-2.実践内容

DLAの実施

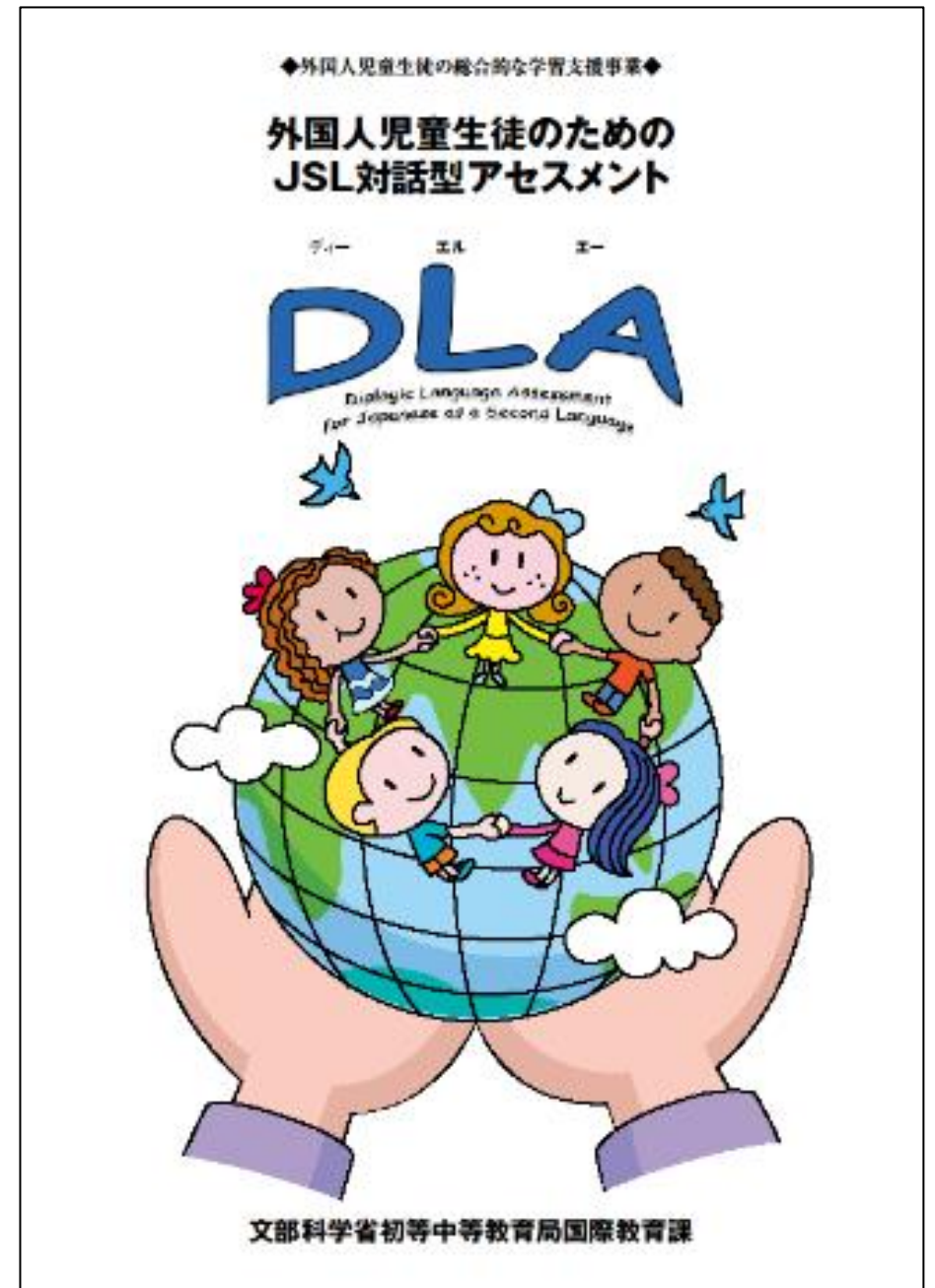
児童1名につき、
授業1コマ分(45分)で実施

<はじめの一步> 5~10分程度
(導入会話・語彙力チェック)

<話す> 10~15分程度

<読む> 20~30分程度

*<聞く><書く>は扱わなかった。



活動案 例)

対象児童	小学校4年 日本生まれ DLA 評価:話す 3.8/ 読む 1.8	
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・形容詞、形容動詞の語彙が乏しい。 自分の気持ちをうまく伝えられず、人間関係でトラブルが起こることがある。 ・順序立てて説明をすることが苦手。 	
活動名	(12) 「気持ちカード」で学ぼう①<悔しい・羨ましい・寂しい・嬉しい・恐ろしい>	
目標	<ul style="list-style-type: none"> ・感情表現を表す語彙を正しく理解する。 ・身の回りで見られる出来事を客観的に捉えることで、その後の適切な対応を考える。 	
教材教具・準備物	<ul style="list-style-type: none"> ・気持ち絵カード1回目 (35-36 ページ) ※神経衰弱をする際は、透けないように厚紙などを貼ってご使用ください。 ・行動カード1回目 計5枚 (43 ページ) ※切り離してお使いください。 ・ワークシート1回目 (47-48 ページ) ・場面カード (55 ページ①) ※切り離してお使いください。 	
活動目安時間	学習活動	備考
3分程度	形容詞神経衰弱をする 気持ちカード(計10枚)を裏返し、漢字とひらがなで書かれた同じ形容詞のカードを探す。 カードをひく時は書かれた形容詞を声に出すルールにする。	使用する気持ちカード ・くやしい ・悔しい ・うらやましい ・羨ましい ・さびしい ・寂しい ・うれしい ・嬉しい ・おそろしい ・恐ろしい
6~7分程度	ワークシート(1回目)に記入 ワークシートの表面を使用。 1. イラストの表情に合う形容詞を線で結ぶ。 2. これらの形容詞がどんな場面で使われるのか、合う例文を線で結ぶ。	

ワークシート1回目(表)

1. 気持ちをあらわす言葉をおぼえよう
 顔と合う言葉を線でつなぎましょう。

おそろしい うれしい くやしい うらやましい さびしい

2. わたしは、どんな気持ちになりますか。
 合う言葉を線でつなぎましょう。

50mを8秒で走ることができた。 ・さびしい
 友達は明日USJに行くそうだ。 ・おそろしい
 神のいい友達が遠くにひっこした。 ・くやしい
 ゲームで負けた。 ・さびしい
 昨日大きな地震がおきて、家のお皿が ・さびしい
 たくさん割れた。

ワークシート1回目



田中君に言う。
 ぼくにもボールを回してもらおうよ、
 がまんしてドッジボールを続ける。
 田中君にきらわれたくないから、
 腹が立つから、何も言わずに怒って帰る。
 田中君が持っていたボールをうばって
 自分が投げる。

	<p>行動カード(1回目)</p> <p>「私はこのあと、どうしたらいいと思いますか」</p> <p>5枚の行動カードを机に並べ、適切な行動だと思うものを選んでもらう。</p> <p>(該当する答えがない場合は空欄カードを選ぶ。)</p> <p>そのカードを選んだ理由を聞き、私の思いや田中君の気持ちを推測する。</p> <p>例</p> <p>「田中君に嫌われたくないから我慢してドッジボールを続ける」カードを選んだ場合、</p> <p>我慢をしながら、田中君と遊ぶドッジボールは楽しいかな？</p> <p>明日も遊びたいって思うかな？など</p> <p>セリフを書こう</p> <p>ワークシートの裏面を使用。</p> <p>私は田中君にどんな言葉をかけたら良いか。</p> <p>言葉遣いにも気をつけながら、吹き出しに書いてもらう。</p> <p>相手を傷つける発言を書いた場合には、言われた立場になって考えてみる。</p>	<p>使用する行動カード</p> <ul style="list-style-type: none"> ・腹が立つから何も言わずに怒って帰る。 ・ぼくにもボールを回してもらおう、田中君に言う。 ・田中君に嫌われたくないから、我慢してドッジボールを続ける。 ・田中君が持っていたボールをうばって自分が投げる ・空欄カード
--	---	--

 発展

学んだ形容詞・形容動詞が定着しない時は、イラスト付きで壁に掲示したり、下敷きに貼るなど言葉を発したい時にすぐに目に入るところに提示できるよう工夫する。



実際に使ってみた小学校教員からの意見や実践内容

3. 日本語協力者へのアンケートからの実践の振り返り

回答者：日本語協力者10名

実施時期：2024年3月

実施方法：webアンケート（記名式）

3.1 DLA研修及びDLA実施について

内容理解	十分 理解できた	概ね 理解できた	あまり理解 できなかった	理解 できなかった
子どもの日本語教育 に関する考え方	4	6	0	0
DLAとは何か	8	2	0	0
DLAのやり方	7	3	0	0
DLAの評価方法	6	3	1	0

研修でもっと時間をかけて扱ってほしかったことがありますか。

はい:3名 いいえ:7名 「DLAのやり方と評価方法」「DLAの練習」
「子どもの日本語教育について他者との意見交換」

<DLA研修の満足度>

	大変満足した	概ね満足した	あまり満足しなかった	満足しなかった
研修の内容について満足いただけましたか	4	6	0	0

- ・基礎的なことから丁寧に教えてもらえた。
- ・実際に学校に行く前に、もう少し実習時間または見学時間があると良かった。

<DLAの実施について>

DLAの実施ははじめてでしたか。 いいえ:2名 はい:8名

	うまくできた	概ねできた	あまりできなかった	全然できなかった
DLAを実践してみてどうでしたか	0	5	5	0

DLAで困ったこと・うまくできなかったこと

- ・「覚えていない」「わからない」と言っている子どもから発話をうながすこと。
- ・子どもが反応してくれないときに、どうしたらいいかわからなかった。
- ・敬語で話したら、子どもが身構えてしまった。

<DLAの実施について>

	うまくできた	概ねできた	あまりできなかった	全然できなかった
DLAを実践してみてもうでしたか	0	5	5	0

DLA判定で困ったこと・うまくできなかったこと

- ・子どもができている・できていないの基準がわからず悩んだ。
- ・自分の判断が妥当か不安があった。
- ・学年相当をどう判断するのか。

3.2 活動案作成から実践報告会まで

<活動案作成について>

困難に感じたこと・負担に感じたこと・工夫したことなどの感想

- ・児童が飽きないようにイラストを多めにしたり、選択肢を選べるように選択カードを作成した。
- ・アイデアはあっても自分の中でまとまらず苦勞した。
- ・大人の学習者向けに考える教案の作り方とは勝手が違って、戸惑った。
- ・グループで他の人の意見が聞けたり、アドバイスをもらったりできたのがよかった。
- ・グループの方の力を借りて、良い活動案を作ることができた。

<意見交換会について>

意見交換会の参加:5名(オンライン参加含む)

意見交換会は、教案を再考するのに役立ちましたか。

→回答者全員から「はい」と回答

<実践報告会について>

報告会の参加:5名(オンライン参加含む)

報告会は、教案を再考するのに役立ちましたか。

→回答者全員から「はい」と回答

3.3 取り組み全体と今後について

<事業全体について>

	大変 よかった	よかった	あまり よくなかった	全然 よくなかった
事業全体について どうでしたか	10	0	0	0

3.3 取り組み全体と今後について

<事業全体について>

学んだ(学べた)こと・成長した(成長できた)こと

- ・外国人の児童の実情を知ることができた。
- ・今まで留学生の日本語教育を行ってきたので、違う視点での日本語教育を知ることができた。
- ・日本語指導の先生方の工夫を知ることが大変学びになった。
- ・小学校の先生と連携しながら進めていくことで、日本語教育の観点ではない部分もたくさん学べた。学校現場の先生だからこそその知恵なども活かして教案作りができた。
- ・相乗効果的なものもあった。

<今後について>

今後も子どもの日本語教育に携わっていきたいと考えますか。

はい:8名 いいえ:1名 無回答:1名

- ・自分自身の子どもに関する知識と経験不足のため、正しく評価する自信がない。
- ・将来的には携わりたいと思うが、今のスキルでは的確なアドバイスができると思えない。
- ・児童に触れ合えて貴重な経験だった。
- ・初めてのDLA経験を通じて、訓練すればだれでもできるということ強く感じた。



4.取り組みの状況

1) 報告書(33の活動案)

➡市内すべての小中学校の現場に指導案を配布 →〈活用〉

2) 「日本語指導支援員」としての活躍

➡日本語教育従事者と教育委員会とのネットワークの構築



学校現場にて日本語指導の体制づくり指導法などについて助言
(DLAの実施／協議／提案等)

3) 小学校教員と日本語教育従事者との交流とスキルアップ

➡お互いの存在や知識について知る→つながる〈融合〉

ご清聴
ありがとうございました



↑
報告書ダウンロード

33の日本語指導活動案が掲載されています



参考文献・資料

(1) 小川佳子・樋口尊子・藤井みゆき(2023)「日本語指導支援員による日本語能力判定 (DLA等のアセスメント)をもとにした日本語指導の在り方—東大阪市における外国人児童生徒のためのJSL対話型アセスメント研修を中心に—」『ASIA—社会・経済・文化—』第10号東大阪大学国際教養こども学科

(2) 小川佳子・樋口尊子「地域の日本語指導体制づくりをめざした小学校と日本語教育の連携」日本語教育学会2024年度第1回支部集会予稿集

https://www.nkg.or.jp/event/.assets/20240720_kyusyu_okinawa_yoko.pdf

(3) 東大阪市『日本語指導支援員による日本語能力判定(DLA 等のアセスメント)をもとにした日本語指導の在り方報告書』

https://www.city.higashiosaka.lg.jp/koumin/cmsfiles/contents/0000038/38835/jinken_houkokusyo.pdf

(4) 文部科学省「外国人児童生徒のための JSL 対話型アセスメント DLA」

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/clarinet/003/1345413.htm

(5) 文部科学省「外国人児童生徒受入れの手引き」2019年3月改訂版「第6章市町村教育委員会の役割」

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/clarinet/002/1304668.htm